

■ 訃報

二十回生 和田 忠博様 17・02・08没

和田忠博さんを偲んで

この2月に、従兄弟の和田忠博さん急逝の知らせが入ったとき、私はすぐには信じられませんでした。

1月に80歳(傘寿)の誕生日を家族に祝ってもらったと聞いたその数日後に届いた訃報でした。

昨秋の千里山会総会では彼は神戸から酸素ボンベを携えてやって来ていたので、呼吸器系のどこかに弱い箇所があったのでしょうか？彼はそれに関して何も言わず私も尋ねませんでした。閉会の少し前に全員が歌う合唱の際、普段は目立って大きな声で歌っていた彼が、その日は静かに口ずさんでいるだけでした。近くの席にいた私は「どうしたの？」と問いかけました。「息が続かないんだ」と言ったので「私だって息継ぎばかりしながら歌っているわ」と、あまり気にも留めませんでした。

妻に先立たれて以来一人暮らしが長くなっているのを見て、日常の食事はどうしているかしら？栄養管理は？不自由な生活をして可哀想だなあ、と、心によぎ

今、千の風になって、可愛がっていた3人のお孫さんの成長を見守っていらっしやることでしょう。

18 小木曾文子

和田忠博君に伝えられなかったこと

私と和田君は千里第二小学校の同級生でしたが、彼は、小学校卒業後から別の中学に行ったことや転居されたことで、疎遠になっていった時期が続いていました。その後、昭和45年から始めた、千里第二小学校の同期会を機会に、同期のゴルフの会等親しく付き合うようになりました。

特に彼は、千里山や千里第二小学校に対する郷愁が強く、その後の同期会や、同期生の有志の「千里山を歩く会」には必ず参加し、又、「東京千里山会」、「ちさと会」にも皆勤で参加し楽しんでたと聞いていました。

今年の年賀状に、「1月15日(日)のサンテレビ(関西地方局)にチラツと顔が出るかも」と書いてありました。

彼は、甲南大学のグリーククラブで活動し、その後も地域でのコーラス活動に大事にし頑張っていた。

りましたが、もともと明るい性分の彼は、その時も元気で楽しそうな様子だったので、私はあまり深く考えなかったことを今になって悔やんでいます。

思えば彼が東京の千里山会を知ったきっかけは千里山会の会誌に私達の伯父が書いた「千里山開発物語」を掲載していただいた時からだったと思います。事務局から会誌を余分に頂いたので従兄弟の忠博さんにも会員名簿を添えて送りました。すごく喜んでくれて、爾来、遠路なのに東京の千里山会に出席するようになりました。同期の方々初め沢山の友達との交流が復活したのではないかと思います。東京在住の息子や娘夫婦、孫たちに会うことも喜びの一つで、千里山会には殆ど欠かさず出席していたようです。

彼は「千里山が大好き」な人でした。もの心つくころから千里山に住み、お稲荷さんの隣にあった幼稚園に通い、千二小学校を卒業、中学生の頃に神戸に引越しました。上の噴水の周辺やその先の山や原っぱを隣家の従兄弟たちや近所の友達と駆け巡り遊んでいました。幼児期、少年時代の数々の思い出がいっぱい詰まった千里山を懐かしみ、東京の千里山会でも共通の経験や思い出を持つ多くの人たちと交わりができ、とても嬉しそうでした。

るようにみえました。近年、肺気腫を患って、酸素ボンベを手放されなくなっても、童謡コーラスは頑張っていたようで、その活動がテレビで放映されることになったとのことでした。

「放映日には録画をして」と思っていたのに、その私がいちもよらず、1月11日に急性虫垂炎で、即入院、即手術となり、1月15日は病院のベッドの上で彼の出演しているテレビを見ることになりました。

入院中だったこともあって、その報告をしないまま、その内電話をしようと思っていた矢先、放映から1カ月も経たない2月9日に突然の訃報！

「お前さんの楽しそうに歌っているテレビを見たよ!!!」と伝えるつもりが、彼との別れの言葉になろうとは、悔やんでも悔やみきれない!!!

お互い、「そのうちに」が通用しない歳になったのだと痛感させられています。

今は、彼との楽しかった思い出とともに冥福を祈るばかりです。20 荒木 弘進

昨年の二十回総会の受付で、酸素ボンベを勢いよくガラガラと引っ張ってこられた、和田忠博様にお目も懸かりました。この調子では来年は出席出来ないかも知れないと弱音を吐かれたので、そのお元氣さなら来年も大丈夫、必ず来て下さいと励ましたばかりです。小木曾様から悲報を告げられ、信じられませんでした。

忠博様は会誌14号に「千里山の思い出」を書かれ、終戦から間もない頃近所の人達でダンスパーティーを開いていたとありました。当時私は千二小一年坊主でお稲荷さんの下から遙々と「上の噴水」の先の友達の家によく遊びに行っており、ダンスパーティーのことは知らなくても当時が懐かしく、ご寄稿の後に一筆その頃の思い出を書き加えさせて頂きました。

友達の家から生垣の隙間を通ると忠博様の庭先、忠博様は坊ちゃん刈りのかっこいいお兄ちゃんでした。その横に地続きで千里山人和田昌允様のお宅、昌治様・昌明様のご兄弟がおられ、友達と一緒に三人のお兄ちゃん方に遊んで頂きました。七十年前の懐かしい思い出です。24奥田陽一

私が昭和22年千二小に入学した時、奈美江様の妹さんの由紀ちゃんと同じ組でした。家がお稲荷さんの階段の上と下で近かったので奈美江様も一緒によく遊びました。玄関を入ると板敷きの広い居間があり、そのホンの片隅にグランドピアノがありました。当時珍しいインコが飼われていて「アホ・マヌケ」など悪い言葉を教えたり、由紀ちゃんのあだ名を呼んで冷やかしたりしたら「そんなこと言うたらあかん」とたしなめられました。二学年離れたら少し怖いお姉様でした。

その後東京転勤もありご無沙汰していましたが、昭和50年頃千里山へ帰ることもないと判り、石神井公園の近くのマンションの一室を購入、前の道で奈美江様とそっくりの人に出会いました。その時は声をかけられませんでした。千里山会設立総会でお目にかかり、当時近くに住まれていたと伺いました。

由紀ちゃんのお友達にも声をかけられたそうで、同期が十名以上参加しました。ただ、由紀ちゃんが若くして亡くなられたとの悲報も伺い声も出ませんでした。

千里山会の幹事会や合唱の練習、総会で奈美江様を呼ぶ時はいつも「尾川原さんのお姉さん」、「ちよつとその言い方向とかならへん」と言われても「由紀ち

二十一回生 村上 律子様 16・06・12没

二〇〇二年総会に一度だけ出席されました。

二十二回生 尾川原 奈美江様 16・09・19没

創立総会の二年前一九九五年も秋の深まる頃のまだ会名もない復活第二回同窓会の受付に、ちよつとボーイッシュで素敵な若手女性がやって来られました。前はほとんどが戦前の、OB・OGの方々の集まりでしたから眼鏡をかけた元氣のいゝ22尾川原奈美江さんは、とてもフレッシュで印象的でした。

この日は唯一畳座敷での同窓会で会誌二号五六ページの真中に彼女が移っておられますので懐かしい面影を偲ぶことが出来ます。

総会の奏楽は、伊達しづ先生門下の4安倍（角田）智慧子・6藤井（柳父）幸子・8伊藤（宍戸）清子大先輩の方々のあとを近年は同門の22尾川原さんがホットコーナーを守って下さいました。柔らかな美しい音色が今も耳から離れません。

奈美江さんありがとう、感謝してます！14柿崎眞吾

やんのお姉さんやもん」で終わり、私にとって奈美江様は最後まで「尾川原さんのお姉さん」でした。

24奥田陽一

謹んで三人の方々のご冥福をお祈りいたします。